



障害者福祉に係る研修事業

～車いす講座～

尼崎市肢体障害者福祉協会

尼崎市肢体障害者福祉協会とは

【 設 立 】 昭和26年4月

【会員数】 150人

【 目 的 】 尼崎市の肢体障害者が融和協力して総合
扶助による福祉増進を計る事を目的とする。

【 事 業 】 ○文化・スポーツ事業 ○研修事業
○広報事業 ○市内障害者団体との緩やかな連携

障害者福祉に係る研修事業 ～車椅子講座～

【実施目的】

近年、車いすは多様性に富んでいる。それぞれの特性を知り活用することにより生活機能を維持し、生活の質を高めることが期待できる。肢体の不自由な方もそうでない方も車いすについて知識を得る機会に限られており、ともに学び理解を深めたい。



障害者福祉に係る研修事業 ～車椅子講座～

- 【日 程】 令和5年11月2日(木)
- 【場 所】 尼崎市身体障害者福祉会館 大ホール
- 【内 容】 車いす利用の効用とその弊害等 について、
兵庫県立障害児者リハビリセンター長
柴田徹氏による講演の後、講師を囲んで意見
交換を行った。
- 【広 報】 公共施設・関係団体へのポスターの掲示の
依頼、チラシの配布など。
- 【対 象 者】 肢体障害者、一般市民 など
- 【参加者数】 33人
(肢体障害者23人、一般市民など10人)

障害者福祉に係る研修事業 ～車いす講座～



研修の様子



障害者福祉に係る研修事業 ～車いす講座～

【効果】 今回の研修会は、車いすについて種類、使用方法、福祉サービスと介護サービスの制度における取り扱いの違い、そして交通ルール等と多岐にわたる内容の研修でした。講演後の意見交換会で一般の方から「車いすは歩行者という認識とは知らなかった。」「歩道を電動車いすが通り邪魔とってきたが、むしろ自転車の通れない歩道もあると知った。」「種類が多く、車いすとっていなかったものもありびっくりした。」また、肢体障害者の方からは「自分の体形や障害程度により選ばなければならないのに、業者の言う通りにしていた。」「車いすに乗るのは最後の手段と頑張って歩いてきたが、今回のお話で、気持ちがとても楽になった。」(一部の意見抜粋)があり、それぞれの立場で車いすへの理解が深まったと考える。